

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

# 教職課程・保育士養成課程の国語表現系の授業におけるアクティヴ・ラーニング的方法の試み（１）

著者	三浦 正雄
雑誌名	埼玉学園大学紀要．人間学部篇
巻	17
ページ	247-257
発行年	2017-12-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1354/00001098/">http://id.nii.ac.jp/1354/00001098/</a>

# 教職課程・保育士養成課程の国語表現系の授業における アクティヴ・ラーニング的方法の試み（１）

An Experiment for Active Learning Methods in Teaching Japanese Language  
Expression in the Teacher Training Course and Nursery Teacher Training Course (1)

三 浦 正 雄

MIURA, Masao

## 序

これまで授業におけるフィードバックを自己流にて試みてきたが、昨今はアクティヴ・ラーニングの活用が重要視されてきており、様々な研究書も発表されている。そこで、これまで教職課程・保育士養成課程の国語表現系の授業において実践してきたフィードバックの手法をふりかえりつつ、最近の動向から光をあて、より良い方法を考察し模索してみたい。

現任教では現在、国語表現系の授業に該当する科目には、「日本語の運用」「文章作成法」があり、幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程において選択必修科目となっている。教職や保育士の職に就く場合、様々な日本語表現力や文章作成能力が必要とされるため、こうした扱いになっていると考える。

一方、筆者は、これまですべての授業において、発表形式の援用やコメント用紙・提出物等によるフィードバックを行ってきた。特に、コメント用紙は、授業回数である15回分の感想や意見をふくむコメントが、回のテー

マと共に書き込めるようになっている。（前任校の教育学を専攻する同僚から教示されたものである。）そして、コメント用紙や提出物によりプリントを作成し、次の回は、最初にこのプリントを読み解説するところから始めている。優れた意見やユニークな意見等については口頭でコメントを付している。この方式は、国語表現系の授業でも同様である。これは、文部科学省及びその諮問機関である中央高等教育審議会によって答申が出され、それにとまって教育界において、非常に重要視され始めたアクティヴ・ラーニングにも通じるところがある試みであるように考える。

そこで、この文章では、これまでの授業における様々なフィードバックで振り返りながら、現在のアクティヴ・ラーニングの方法と比較し、今後の展望を考察してみたい。

## 一、四つの柱

「幼稚園教育要領」の領域「言葉」及び小学校・中学校・高等学校の各「学習指導要領」「国語」、そして「保育所保育指針」の領域「言葉」は、主に「聞く」「話す」「読む」「書く」

キーワード：国語表現、アクティヴ・ラーニング、教職課程、保育士養成課程

Key words : japanese expression, active learning, teacher training course, nursery teacher, training course

の四つの柱から構成されている。発達段階にともない、前二者から後二者へと比重が移ってゆくが、四者は相関性があり、重要性の比重は変わらないと考える。そして、これは、学習指導要領等の存在しない高等教育においても重視すべき柱であると考えてよいであろう。また、高等教育において、重視され、科目を設けられることの多い文章表現＝「書く」も他の三要素とも深く関わっており、文章表現のみでは完結できない、と考えられる。

また、教職課程・保育士養成課程としての国語表現系の科目の受講者は、学習者自身の国語表現力を向上させる必要性に加えて、教育対象者の国語表現力を育てる指導力も養成する必要がある。よって、この点からも「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの柱は相補的で、有機的関連性をもって学習することが必要と考えられる。

## 一、「聞く」ことから「書く」ことへ聞き書き

「聞く」ことの学習としては、最初に、①他者の話を聞いて自分のものとしてゆくときのポイントを学習している。次に、②実際に講演会のビデオを聞いて聞き書きする練習を行っている。

②において、聞いたことの内容を文章にしてゆく練習は、あえて自分の感想や意見を一切加えず、話者の意図を的確につかむ練習であると同時に、講演の内容を変えことなく文章化してゆく聞き書きの練習でもある。その後、③別の形で自分の考えをコメントする機会も設けている。

この授業における学生のコメンツの例を掲載する。（学生のコメンツは、プリントの文字数の関係で簡潔に記さざる得ないため、内

容に影響しない程度の多少の修正を行っている。また、個人名はすべてイニシャルで表示している。）

まず、①他者の話を聞いて自分のものとしてゆくときのポイントの学習に対するコメントである。

- ・聞き手の大変さを知った。相手の意見に対して肯定しながら、自分の意見を述べる。（U）
- ・聞き上手になるために、自分の表情や会話に気をつけたい。（T）
- ・話し手が話しやすくなるように、笑顔でアイコンタクトを取りながら心を開く。（T）
- ・最後まで話を聞けるように、これから気をつけたい。（K）
- ・聞き手は、話し手の目や表情を見て判断しなければならない。（F）
- ・聞くことは行動だ、という言葉に感動した。つま先は興味・関心がある方に向く。（A）
- ・聞き上手になるには、殻に閉じこもらないようにする。（Y）
- ・相手の気持ちになって、話したり聞いたりしたい。（K）
- ・聞き上手になるとメリットがたくさんあるので、なれるように心がけたい。（S）
- ・内容がわからないと受け流してしまうので、理解できた部分から確認しよう。（T）
- ・自分と相手が話しやすい環境を作れるようになりたい。（Y）
- ・聞き手次第で、話し手も変わる。（M）
- ・アイコンタクトやあいづちなどを行って、信頼感を持てるようにしたい。（Y）
- ・話す前に、人の話を上手に聞くことが大

切だ。(K)

- ・人から好かれ、いつも周りに人がいるのは、その人自身が聞き上手だからだ。(N)
- ・何より最大の敵は、恥ずかしさだ。(T)
- ・相手の目を見る以外にもたくさんのことがあって、勉強になった。(T)

この学習が「聞く」という行為の意味を深く考えるきっかけになっていることがうかがわれる。また、聞き上手だと考える人とその特徴をあげる発問は、学生自身が周囲の人々に思いを巡らすようであり、やはり親や友人、先生など身近な人物が大多数を占めている。

国語表現の学習は、「聞く」から始まると考えるが、例えば、作家がその題材のソースを必ずしも書物から得ているとは限らず、耳から情報を得ている場合も多いことなどからも、こうした「聞く」から始まり「書く」への流れを作ることは重要である、と考えられる。

次に、②実際に講演会のビデオを聞いて聞き書きする練習を行い、その後に③別の形で自分の考えをコメントする。ここでの事例は、「読み聞かせ」を題材にした講演を聞いてのコメントである。

- ・T先生の読み聞かせに対する愛情や熱意が、よく伝わってくる。(A)
- ・読み手の心の込め方や読み方で、受け取り方が変わるので、豊かな心を持ちたい。(T)
- ・読み聞かせするときに恥ずかしがっていると、子どもに伝わり、子どもは楽しくならない。(N)
- ・読む人の声の高低や表情により、絵本の読み聞かせの楽しさをあらためて感じた。

(T)

- ・発達にあった本を読んであげたい。心に残る本を読んであげたい。(K)
- ・絵本は、子どもと一緒に読み手も楽しむことが大事だ。(S)
- ・絵本は、考える力が広がる。子どもに夢と希望を与えることができる。(T)
- ・絵本を下読みすると、絵本の世界に入りやすくなり、読むときの強弱もわかる。(M)
- ・子どもは絵本の絵を見てイメージしたり、理解したり、発見をする。(Y)
- ・内容が濃く共感した。発達段階や人格の形成のうえで大切な役割がある。(O)
- ・T氏は、人をひきつける話をする。子どもの年齢によって感じ方が違う。(O)
- ・当たり前のことがきちんとできているからこそ、語り手として素晴らしいと感じる。(T)

コメントだけではなく、実際にまとめたレポートのうちからも幾つかの事例を紹介して、聞き書きのポイントに言及する。こうして聞くことから書くことへの流れを考えてゆくことが学習の目標の一つである

## 二、「話す」ことから「書く」ことへスピーチ、プレゼンテーション

「話す」ことの学習においても最初に、①他者に話すときのポイント、特に、人前で話す際のポイントを学習する。そして、次に②スピーチ原稿を作成する。この際、大まかなテーマは設定するが、かなり幅のあるテーマを設定し、各自が調べ、考え、まとめ、そしてそれを文章化して発表する余地を大きく残すようにしている。最後に、③実際にスピー

チを行い、原稿を書くことと発表することの落差を体験し、それを文章を書く際に生かせるようにしてゆく。

まず、①他者に対して話をするときのポイント、特に人前で話す際のポイントについてのコメントである。

- ・プラス思考で、表情や態度も明るくなる。(O)
- ・相手が興味を持つ話し方をすることが必要だ。感謝の気持ちを忘れずに過ごしたい。(N)
- ・わかりやすくまとめて話したい。頭の中で整理してから、話すことを意識しよう。(T)
- ・相手の名前を言うと、相手に伝わりやすい、と聞いた。(A)
- ・話すときも聞くときも、明るい顔をする  
と良いのは共通している。(M)
- ・相手の立場に立って話せば、人に好かれる。(S)
- ・自分を印象づける大切なことなので、いろいろと工夫をしなければいけない。(S)
- ・話すときに目をそらしがちなので、プラスに考えて話の内容をうまく伝えたい。(T)
- ・話すときに一本調子だと言われることが多いので、抑揚や間が大事だ、とわかった。(Y)
- ・マイナス思考で考えてしまいがちだが、プラスの暗示をかけて堂々と話したい。(A)
- ・きちんと終わりを締めくくるのは、大切なことだ。(S)
- ・堅苦しい言葉を並べればよいのではなく、

聴衆の立場に立って話すことが大切だ。

(K)

- ・等身大で話す。(O)
- ・ユーモアを入れることによって、人の意表をつく。(S)

日頃の自分の話し方と話の内容を振り返り、人前で話す場合はどのような姿勢と言葉が必要かを考えている。話し方のスキルにとどまらず、内容との相関性をも考え、これをふまえて、②スピーチ原稿を作成するのである。これまで国際化時代の教育、少子高齢化社会、格差社会など様々なテーマでスピーチを行うための原稿を作成したが、ここでは「格差社会について」という共通テーマでスピーチ原稿を作成したときのコメントを取り上げてみたい。

- ・所得税率低下、労働派遣法緩和、貧困家庭の再生産が格差社会の原因であると知った。(T)
- ・格差にもいろいろな種類があり、改善に向かっていないものも多い。(T)
- ・自分の知らないところで格差がたくさんあるのだと知り、驚いた。(S)
- ・格差社会にいることを、忘れないでいたい。(A)
- ・原稿の筋道は立てられたので、得た情報をまとめてうまく書けばよい。(K)
- ・格差社会や階級社会の難しさ、海外と日本の違いなどが調べられた。(Y)
- ・格差社会は、非正規社員の増加で加速したことがわかった。(S)
- ・流れや構成を考えると難しい。細かい内容の選択肢が広い。(K)
- ・伝わるように言葉を選び、書くのが難し

い。強調する箇所を意識すると、書きやすい。(T)

- ・日本にも多くの格差がある。性別に関しては、自分が女性なので怖い、と思った。(H)
- ・書き始めが難しい。どうしたら冒頭で興味を持たせ、引き込めるかが難しい。(N)
- ・日本も意外に格差がたくさんあって驚いた。中でも、貧困について、スピーチしたい。(T)

このように格差社会について調べたり考えたりする中で、新たに知識・情報を得たり、気づき・発見をしたりしている様子がうかがえる。これをフィードバックして、それぞれの草稿に反映させたうえで、実際にスピーチを行う際の原稿を完成するという流れである。

受講者が原稿を書き、相互のコメントからフィードバックして原稿を改訂し、スピーチを行ったうえで、さらにまたそれを相互にコメントし、話し言葉と書き言葉の落差を知ることができれば、文章を書くうえで非常に有意義であると考えてる。

次に、③スピーチ自体を行ったこと自体に対するコメントを見てゆきたい。ここでは、「国際化時代の教育について」「格差社会について」の二つのテーマについてのコメントを見てゆきたい。

○国際化時代の教育について

- ・内容は良いものが多かったが、インパクトが無い。強いインパクトがほしい。(Y)
- ・調査がしっかりしていた。話者の体験や例に説得力があった。学びにつながった。(K)
- ・話者の経験が入っていて、考えさせられ

た。(A)

- ・しっかり調べている。エピソードを踏まえている人が多い。(I)
- ・相手のことも考え、どのように教育したらよいかに気をつけながら指導したい。(S)
- ・外国の話に、興味を持った。色々な分野からの視点があり、面白かった。(M)
- ・工業高校や定時制高校の教育の話が聞けた。コメントを書くことで他の人の話をよく聞くことができた。(S)

○格差社会について

- ・格差社会について、他の人の意見を聞くことができて、自分の考えが変わった。(T)
- ・皆、違った角度から見ているところが良かった。(T)
- ・格差の内容も様々で、聞いていて考えさせられた。世界にも格差は多くある。(H)
- ・話の組み立て方や話し方など、取り入れてみたいことがたくさんあった。(N)
- ・奨学金に関するスピーチが、わかりやすい。変えられるものは、変えた方が良い。(T)
- ・調べたことを自分の言葉にして、内容に組み込んでいるところがすごい、と思った。(A)
- ・自分の考えを加えると、独自のものになる。視点を変えると、違った内容になる。(O)
- ・斬新な方法があり、参考になった。(O)

学生は話し方についても評価はしているものの、決してパフォーマンス能力のみを見ているわけではなく、スピーチの中身も高く評価している。特に調査の姿勢や体験・例・エ



ピソードの内容、構成力、考察なども考えながら評価している。

ところで、こうしたスピーチの実演結果から、内容・原稿がよくできているか、それを実演する際の諸問題をどうクリアしているか、などを検討して学生に一人一人を採点してもらいコメントも付してもらおう。その中から優秀者を選出する。そして、優秀者のどこがどのように良かったかのコメントをフィードバックし、またそれにコメントしてもらおう。

以下は、優秀者に対するコメントである。

#### ☆国際化時代の教育について

##### ◎Y君（1年）

- ・聞き手に質問する等、工夫が見られた。
- ・発表には勇気がある内容で、勉強になった。
- ・実体験が事細かに話されていて、学んだことも語られた。
- ・世界観に引き込まれた。
- ・自分に関して、ありのままを語っているので、話に入りやすい。

##### ◎Mさん（1年）

- ・外国の方との接し方から、人柄の良さが伝わった。
- ・自分の経験から感じたことや考えたことを、しっかり述べていた。
- ・体験談をもとにした例がわかりやすく、しっかりしていた。
- ・教えることが同時に教わることであることを述べていて、納得できた。

##### ◎Sさん（1年）

- ・誠実な気持ちが伝わってくる。
- ・内容に関する調査と表現力が、すごい。
- ・構成がしっかりしていた。
- ・祖父母の言動の例や体験談が、しっかり

していた。

- ・経験を元に教育について考えていて、説得力があった。

##### ◎Oさん（1年）

- ・経験談をまじえていてわかりやすく、興味がわいた。
- ・語学留学の体験談が、おもしろい。
- ・留学先の国と日本の学校の違いを、わかりやすく紹介していた。
- ・一言話すたびに前を見て反応をうかがっていたのが、好印象だった。

##### ◎N君（1年）

- ・引き込まれるような体験談を、皆に投げかけていて考えさせられた。
- ・小学校では楽しかった英語教育が、中学では大変になったという体験に共感した。
- ・自分の体験も入っていて、聞いていて興味深かった。

##### ◎Aさん（3年）

- ・実習先の話を盛り込ませていて良かった。
- ・構成がしっかりしていた。
- ・教育者は、広い視野を持つことが大切だ、とわかった。
- ・問題点と解決法がわかった。
- ・様々な教育者や文化、宗教などを具体的に調べていた。
- ・保育者は文化の違いを理解しないといけない、ということがわかった。

##### ◎Hさん（2年）

- ・文化の違いを理解する必要性を、興味を持って聞くことができた。
- ・ユーモアを取り入れたスピーチで、リラックスして聞くことができた。
- ・どうしたら英語が理解できるかをわかりやすい例で話していた。
- ・外国文化の体験例が、わかりやすかった。

聞く側を引き込むような話し方は、すごい。

◎Hさん（4年）

- ・実際に行われている内容を用いた、興味の出るスピーチだった。詳しく調べてあった。
- ・イエナプランを初めて知った。声も聞きやすかった。個性の尊重に感銘を受けた。
- ・テーマを一つに絞っていて、良かった。
- ・海外と日本の教育の違いを話していて良かった。

◎Nさん（4年）

- ・中国の習慣は、理解できた。
- ・中国の文化について、参考になった。
- ・中国のお国柄について、わかりやすく説明していた。
- ・中国のことに絞り、たくさん調べていて勉強になった。
- ・具体例を出していて良かった。
- ・中国人の子を受け持ったときの具体的な教育活動など、内容が良かった。

☆格差社会について

◎T君（4年）

- ・身近に感じることを題材にしている、わかりやすかった。
- ・他の人と違う角度から調べていた。
- ・黒板を使っていた。説得力があった。
- ・飽きさせないように、工夫していた。
- ・講演を聞いているような感じがした。

◎K君（1年）

- ・イギリスの例をあげて、述べていた。
- ・テーマが、斬新だった。
- ・他国との比較が、良かった。
- ・別の方法を提示している点も、良かった。
- ・聞き手を引き込むスピーチが、できていた。

- ・説得力が、あった。
- ・ニュースのように、流暢なスピーチだった。
- ・アドリブを入れていて、すごい。

◎Tさん（1年）

- ・自分の体験談を話していて、良かった。
- ・わかりやすい具体例や対策だった。
- ・世界にも目を向けることで、自分たちの幸せが実感できた。
- ・自分の考えが多く組み込まれていて、良かった。

文章を書くために調査して、その資料をまとめる、そしてそれについて考え、自分の考えを明確にした文章を作成し、それを元にしてスピーチを行う、さらには、同テーマの他者のスピーチを聞き、様々な啓発を受ける、そして、自らのスピーチと他者のスピーチの内容を比較検討して、さらなる自分の考えをコメントに記すという活動により、自分で調べ考えただけにとどまらない深化のきっかけとなるのである。

そして、スピーチ原稿を書き、それをスピーチしてみることで、話し言葉と書き言葉の落差を認識することができ、文章表現を行う際の意識を形成することもできる。

### 三、「読む」ことから書くことへー読書、音読、電子書籍

「読む」ことは「書く」ことへと直結した活動であるため、数多く多様なものを読むことが大切である。国際的にも読書量が学力と比例しているという統計もあり、日本でも、かつて読書量が多かった時代には学力も高く、現在は読書量の低下とともに学力も低下している、と言われている。また、教職課程・保



育士養成課程における読み書きの学習は、自らの読み書きする力にとどまらず、教育・保育の対象者に対しても、読み書きする力を育てる必要性がある。

ゆえに、この柱は、①良書の探し方から始めている。そして、②音読による読み書きする力の向上、③電子書籍にふれる、④新聞の読み方などへと展開している。

まず①読書の薦め、良書の探し方について  
のコメントである。

- ・読書によって、自分の持っていないものに気づいたり、語彙が増えたりする。(S)
- ・アドラーの本は、読んだことがある。この本は、読んでいて理解しやすい。(T)
- ・ベストセラーは初めて読んだが、読みやすかった。かなり大きな知識となった。(M)
- ・欧米では、本を使った授業や宿題を出していて、日本も見習うべきだ。(F)
- ・小学校では読書の時間があり、小説を読んでいた。(U)

ベストセラー、ロングセラーとなっている書籍の中にも、必ずしも良質とはいえないものも多々あること、また実用書などは、必ずしも、日本語のセンテンスを習得したり論作文を書くために考えを深めたりする読書の対象ではないことを指導し、良書を選んで輪読している。

良書の中でも、特によく取り上げているのは、ドロシー・ロー・ノルト『子どもが育つ魔法の言葉』（PHP、1999年）である。この書を輪読し感想文を書かせているが、同時に簡潔にまとめたコメントも書かせており、多くの内容を短文にて表現する練習ともなっ

ている。

以下、この書籍についてのコメントである。

- ・読みたかった本だ。子どもは純粹で、言葉を選んで発してゆかなければいけない。(M)
- ・世界的に有名な本で、高校時代にも、先生が紹介した。接し方・態度が書いてある。(F)
- ・この本は良い文章が多く、共感できるところも多い。(S)
- ・子どもが何かに挑戦したのなら、親が誉めることが大事だ。(I)
- ・親が子に与える影響は、大きいものだ。時には、嘘も必要だ。(A)
- ・子どもとの接し方について、考えさせられる。子どもの視点で書かれている。(I)
- ・親は、子どもの意見や意欲を大切にし、尊重することが大切である。(M)
- ・子どもの内面を誉める、夢を見守る、どれも健やかな成長に大切なことだ。(M)
- ・言動次第で、子どもは変わる。心から子どもを認め、誉められたら良い。(S)
- ・誉めることや励ますことの大切さがわかったが、しかることも時には大切だ、と思う。(K)
- ・子どもは皆、個性があり、可能性が伸びるように挑戦させ、失敗しても励ます。(K)
- ・子どもは、大人をよく見ている。言葉かけや接し方で、内面的に大きく変わってくる。(A)
- ・大人の言葉や行動一つで、その子を傷つけるかもしれないと思うと、怖い。(S)
- ・親が子に夢を与えるのは大切だが、かなわなかった夢を押しつけてはいけない。

（Ｔ）

- ・子どもの夢をかなえられるような人になりたい。（Ｋ）
- ・ただほめるだけではなく、適切なアドバイスを与えることは、難しいが大切なことだ。（Ｔ）
- ・自分に対して自信を持ちながらも、人に対する接し方に気をつけたい。（Ｔ）
- ・本心からほめることが大切だ。子は親の心がわかり、形だけでほめても逆効果だ。（Ｙ）
- ・子どもに、考えや価値観を押しつけてはいけない。（Ｓ）
- ・親からほめられ愛情を注いで育てられた子は、自信と愛を持った優しい人になる。（Ａ）
- ・きちんと愛情を持って接することが、とても大切だ。（Ｓ）
- ・子どもにとって、ほめてあげることがどんなにメリットがあるかが、わかった。（Ｎ）
- ・親は、もっと子に向き合うべきだ。（Ｔ）
- ・親が何でもしてあげる場面をよく見るが、自信が持てない子になる。（Ｈ）
- ・子どもの意見を尊重して、のびのび生活できるように愛情を注ぐことが、大切だ。（Ｙ）
- ・子どもへの助言や手助けの方法を学び、わからなかったことが学べた。（Ｏ）
- ・大きな夢に向かって子どもが進むことは、大切だ。自分は、後悔している。（Ｙ）

これらのコメントからは、この書籍に対する反応が顕著に読み取れる。

次に、②音読による読み書きする力の向上について、である。齋藤隆『声に出して読み

たい日本語』（晶文社、2001年）以降、近年に至るまで音読や朗読がさかんに行われ、その様々な効能が説かれている。その中に、音読が、暗唱につながり、暗唱することにより言葉の定型や順列・組み合わせをパターン化して記憶することがその一つとしてあげられている。

これにより、音読は、読み書く力を育てる。そして、教育者・保育者としても、読み書く力を育てる教育を行ううえで、音読は必要である。

音読が、読む力を育てることは自明である。くわえて、文章を書くうえにおいて、言葉の定型や順列・組み合わせをパターン化して記憶することが基礎力となるが、この力を養成するのに、音読は大きな力を発揮すると思われる。

また、音読において著名な文章を記憶することは、文化の共有や継承にもつながる。さらには、音読は、読書への発展をもともなうものである。

それでは、音読についてのコメントをみてみたい。

- ・詩は、違う人が読むと違う感覚で面白い。（Ｍ）
- ・テンポや抑揚で雰囲気が変わるので、気持ちを込めて読むことが大切だ。（Ｈ）
- ・伝統的な日本文化を感じた。高校時代に暗記した『平家物語』が読めて不思議だ。（Ｋ）
- ・音読をして、小・中学校時代を思い出した。大人になって機会が無いので、新鮮だ。（Ａ）
- ・音読ができなくなった原因は、環境にもある。電車の中や待合室、病院などで声

を発すると周りの迷惑になる場面が増えた。声を出すだけで、脳が働くような気がする。(S)

- ・プロは、一つ一つの作品により読み方を変えている。工夫しなければ、と思った。(S)
- ・俳優や落語家の朗読は抑揚や間があり、楽しかった。音読の大切さを確認できた。(F)
- ・有名な詩歌を読み、音読は大切だと思った。情景が浮かんで楽しい。(O)
- ・プロは、テンポや間、抑揚を意識しているので、聞いていてひきつけられた。(A)
- ・作品の雰囲気や情景を読み取り、読み方を変えなければならない。(T)
- ・何かを覚えるときに、声に出して覚えると覚えやすい。(S)
- ・有名な詩は、これからずっと大切に語り継いでいかなければならない。(W)

コメントからも音読の効用と学生がそれに気がついている様子がうかがわれる。また、教育段階が上になればなるほど、その機会が減少することを残念に思っている様子もうかがえる。

現代において、書籍は紙媒体だけではない。電子書籍はいまや無視することができない媒体となった。電子書籍によってしか読めない書籍・文章や、著作権切れにより電子書籍化された書籍、そして様々な学術論文も電子情報化されている。

今や、③電子書籍にふれる読む学習を行うことが必要である。そして、そこから言葉の定型や順列・組み合わせのパターンを身につけて書くことにつなげてゆく必要があろう。

電子書籍にふれた学生のコメントをみて、

こうした学習のあり方を考えてみたい。

- ・本をネットで見れるのは、便利だ。本や新聞の良さも忘れないようにしたい。(I)
- ・青空文庫には、様々なジャンルの作品があり、見ているだけでもおもしろかった。(Y)
- ・小説は読まないが、読んでみて意外とおもしろかった。何か読んでみたくなった。(T)
- ・思ったより読みやすかった。読みたい本が絶版で、復刊ドットコムを活用したい。(T)
- ・『こころ』を読み、複雑な気持ちになった。紙面で読んだら理解しやすかった。(F)
- ・様々な書籍にふれて多くの情報を吸収できた。芥川作品は短い魅力的だった。(A)
- ・電子書籍は便利なので、もっと活用したい。芥川『河童』を読み返せて良かった。(S)
- ・今までふれてこなかった話題や本にふれて、学ぶことができた。(O)
- ・昔の文学の本は、あまり読む機会がないので利用したい。(T)
- ・これを機に、有名な作家の作品を読みたい。(N)
- ・ふだん読まないものを読むのは、新しい発見になり、良い刺激になった。(Y)
- ・面白そうな文学作品や本があった。復刊ドットコムでは、見たい本があった。(Y)
- ・昔の本を読み、知識が広がった。(K)
- ・電子書籍の扱い方を学んだ。最近の日本では、電子書籍の方が発達している。(S)
- ・電子書籍や電子記事を読んだことがな

- かったので、色々あって面白かった。(R)
- ・紙の書籍の方が読みやすい。電子書籍は目が疲れる。青空文庫は、一番見やすい。(S)
  - ・パソコンやスマートフォンで書籍や新聞が読めるのは、便利だ。(H)
  - ・青空文庫やイーブックジャパンで様々な作品が読めることを知り、ためになった。(A)
  - ・昔の名作を、無料で読めるのは良い。(S)
  - ・パソコンで文を読むのは、初めてだった。気になる本を見つけ、読んでみたい。(S)
  - ・久々にパソコンの授業で、楽しく受けられた。多くの本やニュースがあり、興味深い。(S)
  - ・電子書籍もたくさんある、と知った。無料で読むことができるのは便利だ。(I)
  - ・様々な電子書籍を知ることができて良かった。新聞のホームページは、読みやすい。(K)
  - ・これだけの本が無料で読めるのは魅力的だ。有名でも、読んでいないものが多い。(K)
  - ・初めて電子書籍のサイトにアクセスした。新聞のホームページを、初めて知った。(O)
  - ・青空文庫を、調べた。ピーター・ラビットの本が出てきた。親しみやすい本が良い。(A)
  - ・パソコンで無料で読めることを知って良かった。(Y)
  - ・パソコンで探して、懐かしい本がたくさん出てきた。すごく便利だ。(Y)
  - ・電子本にも肯定的な意見だったので、機会があれば読みたい。(H)
  - ・無料で読めるサイトがあるとは知らな

かった。本を読むと知識が増え、多く学べる。(H)

- ・初めて電子本を読んだり、朗読を聞いたりでできて良かった。(M)
- ・読むことで理解力や思考力が高まるので、読書は大切だ。(I)
- ・年を重ねてゆくうちに、読む本の傾向が変わってゆくのがわかった。(A)
- ・小学校では読書の時間があり、小説を読んでいた。全部読み終える事ができた。(U)

このように電子書籍に初めてふれる学生も多く、反応はさまざまであるが、時代の変化による電子書籍の必要性については認識している。また、電子書籍から読書へ、そして「書く」ことへとつながる流れを、看取することができる。

最後に、④新聞の読み方にふれたコメントをいくつか取り上げておく。

- ・社会を知ることは、大事だ。(N)
- ・新聞記事は、身近で読みやすかった。(K)
- ・新聞の切り抜きの仕方等、将来役に立つ。(U)

次稿では、「聞く」「話す」「読む」三つの柱におけるフィードバックをふりかえり、現在のアクティヴ・ラーニングの手法と比較し、さらには、「書く」ことへと考察を進めてゆきたい。